

(令和5年度)
自己評価書

園番号	園名
703	奈良市立左京こども園

703奈良市立左京こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
I 教育・保育活動に関するもの	(1) 教育・保育目標/計画	① 教育・保育目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育目標の達成を目指し、全体的な計画を作成し教育活動の評価をする。 指導計画について職員で話し合う。 教育活動全般について評価を行い、次年度の計画に活かす。 保護者アンケートを実施し、教育活動の検証をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の発達の姿を的確に捉え、個々の発達段階に応じた援助を行い、教育、保育の充実に努めた。 指導計画を基に、園の研究主題について全職員で話し合い、共通理解をして取組を進めることができた。 月に反省・評価をすることで、次年度への課題を見出すことにつながった。 アンケートを実施し、保護者や学校評議員の方々から評価を得ることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な計画・園目標に基づいて子どもの園生活や遊び・行事の中で、教育目標が達成できるように意識して取り組むことができたかどうか。 アンケート等から教育活動の取り組みについて、保護者や地域の方から理解が深まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 奈良市こども園カリキュラムに基づき発達段階に沿った教育課程を作成し実践した。今後も3年間の発達過程を正しく捉え発達の道筋に即した教育・保育の在り方を明確できるように取り組みを進めていく。
		② 教育・保育計画の作成					
		③ 教育課程/全体的な計画の編成					
		④ 教育・保育活動の評価					
	(2) 教育・保育内容/指導	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 「しなやかな心と体を育む保育を目指して」子どものもつ力を引き出す保育者の関わりを研究主題として取組み、教育・保育の質の向上を目指す。 日々の保育の振り返りを大切にし、評価・反省から、保育内容や環境構成を見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年間の発達の過程を見直し、保育内容の精選や創意工夫に努めた。 発達や幼児の興味関心に応じた保育内容となるよう、環境を整えることに努めた。その中で子どもが夢中になれるあそびをみつけ豊かな経験につながった。子どもの感性や非認知能力が高められるような活動や援助を大切にし、職員間での活動内容の共有と振り返りをしながら課題解決に努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画を基に、一人一人に応じた指導に努め、育ちにつながる援助の在り方に留意し保育を進めることができたかどうか。 発達の過程を正しく認識し、一人一人の子どもがのびのびと自己発揮でき環境構成や援助の在り方に焦点をあて取り組むようにしてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の保育終了後等に振り返りの時間を確保したり、公開保育を通して子どもの力を引き出す指導方法について学び合い、保育者の資質向上につながりやしていく。 日々の保育が、園の研究主題を意識して進めていけるようにしていく。
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
		④ 評価					
	(3) 園行事	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 園、家庭、地域がつながる園行事を構築し、より豊かな経験ができるようにする。 前年度の反省・評価をもとに、内容の精選に努め必要な経験ができるようにする。 行事と保育とのつながりを意識しながら、計画的に保育を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で共通理解し、各担当者が核となり計画・立案し取り組みを進めることができた。 行事について何を大切に考えねらいをもって実施していくのかを、職員間で相談し共通理解をして進めた。 子どもたちの思いや考えを引き出し、子どものもっている力を十分にできるような取組になってきている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 園行事が、子どもにとってどのような学びにつながるのかを検討し、望ましい行事の構築に努めることができたかどうか。 園行事は子どもの発達や経験を重視し、日々の保育とつながりのある内容となるよう、工夫しながら行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事の評価反省を行い、行事の精選や実施の方法を検討していく。 子どもたちがより豊かな経験ができることを重視した行事の計画を立てていく。
		② 行事内容の精選					
	(4) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画を職員間で共通理解する。 自分を大切にすると共に、相手への思いやりの気持ちが育つような保育を立案し取組を進める。 子どもの実態に応じた教材を研究し、指導方法を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが互いを認め合い、協力し合える人間関係の基礎づくりができた。また、一人一人が自分の願いや思いを出し合うことで、相手の思いにも気付くことができるようになってきている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの行動、言動に留意するとともに、保護者の思いや願いを受けての指導になっているかを考慮し、取組を進めることができたかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員一人一人の、子どもへの言葉がけや接し方など人権を尊重した意識を持った関わりが行えているかどうかをセルフチェックし、自分の保育を見直すと共に園全体での人権教育を進めていく。
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
	(5) 生徒指導	① 組織的な指導	<ul style="list-style-type: none"> 報告・連絡・相談・確認を綿密に行う。 個々の幼児や保護者の思いに寄りそう。 保護者の思いを十分に聞く。 個人情報に配慮しながら連携に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 報告・連絡・相談を密に行い、職員がみんな同じ思いで子どもや保護者に関われるようにした。 登降園時に個々の子どもや保護者に声を掛けるようにし、必要に応じて相談にのるなどして連携に努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもや保護者の思いに寄り添い、思いや願いに応じた対応ができるように意識して取り組めたかどうか。 子ども一人一人の様子を十分に把握するように意識したか。 	<ul style="list-style-type: none"> 登降園時に保護者に園の様子を伝え、連携を深めると共に、信頼関係がより一層深まるようにする。 バス通園の子どもの保護者に対しては、連絡を密にすることを意識し信頼関係を深める必要がある。
		② 教育相談・幼児理解					
		③ 家庭との連携					
		④ 関係諸機関との連携					
		⑤ いじめ・児童虐待問題について	<ul style="list-style-type: none"> 対処方針や指導計画が明確である 日頃より実態把握・早期発見に努めている 各学級の状況を園組織として共有できている 保護者や地域と連携できている 組織的に迅速に対応する体制が整備されている 	<ul style="list-style-type: none"> クラス担任、預かり保育担当者、未就園児保育担当者、特別支援教育支援員が連携を取り合い、子どもの様子を日々共有できるようにした。 気になる様子や行動が見られた時には、記録をとり状況を園全体で把握し、園全体の問題として対応できるようにした。 関係機関と連携を取り情報を共有した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で情報を共有して、初期の対応が適切に行えるような体制ができていたか。 園全体の問題として受け止め、職員全体に提示して問題解決に向けて取り組めたか。 虐待については、家庭・職員・関係機関との連携がとれていたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの様子や言動のサインを見逃すことなく捉えられるように努め、迅速に適切に対応できるように全職員が共通理解する必要がある。 虐待について適切な対応の仕方を相談・連携をしていく。
	(6) 特別支援教育	① 推進体制	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な子どもの実情や支援方法について全職員で共有し共通理解する。 個々に応じた個別の支援計画を作成する。 特別支援コーディネーターのアドバイスを受けながら、個々に応じた支援ができるようにする。 関係機関と連絡をとりながら、定期的に保護者とも話し合いの場をもつようにすると共に、個人情報保護に十分留意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育支援・相談課、子どもセンターや療育施設など専門機関と連携を深め支援の仕方について学び、個々に応じた指導ができるように努めてきた。 特別支援コーディネーターの訪問を受け個別の支援計画に基づいてスモールステップで個々に応じた支援が行えるように努めた。 コーディネーター研修で得たことを、職員全体で考えることができるよう伝え合い、相互理解のもと適切な指導に努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の課題について、職員が共通理解のもと指導にあたるようにできたかどうか。 支援を必要とする幼児が多く、支援員だけでは対応しきれない場合も多かったが、職員同士協力し合い適切な支援ができるように取り組むことで、子どもが安心して生活できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、一人一人の子どもの特性を見極める力量を身に付けるため、研修会等に参加し、自己研鑽に努める必要がある。 特別支援教育コーディネーターの活用を行い、要支援児を巻き込んだより良いクラス運営ができるようにしていく。また、学期ごとに目標達成度や課題はどこにあるかを評価しながら次年度につなげていく。
		② 個々に応じた特別支援教育の内容					
③ 指導方法の工夫改善							
④ 家庭との連携							
⑤ 関係機関との連携							

(令和5年度)
自己評価書

園番号	園名
703	奈良市立左京こども園

703奈良市立左京こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育ビジョンや園経営を伝え、リーダーシップを発揮すると共に、教職員一人一人の指導力が最大限に発揮できるようにする。 職員の園務分掌の適正化を図る。 職員一人一人が生き生きとやりがいをもって取り組み、また全教職員が協力・協働して、課題解決に取り組める職場の環境作りに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に本年度の取り組みについて、共通理解が図れた。 日々の朝礼や、必要に応じて随時連絡、報告相談をする機会を常に意識し取り入れたことで、全職員で共通理解し取り組みを進めることができた。 計画的に個々との面談を実施し、職場のよりよい環境作りの構築に努めた。 感染症対策や安全対策について、適切に対応できるよう職員に周知と指示を行い、安心安全な環境が整えられるよう努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全職員で園ビジョンを共有し園長のリーダーシップのもと取り組むことができたかどうか。 職員が協力し合って保育できているか、各自が担当した役割を果たすことができているのかを、見直ししながら取り組むことができた。 感染症対策や安全対策を職員に周知することで、職員がしっかりと把握し対応できたかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> クラス担任、預かり保育担当など役割がわかれているので、報告、連絡、相談を密に行い、園の職員の一員として一人一人が意識をもって取り組んでいくようにする。 育成指針を活用して、組織運営への参画意識を高めていく。
		② 園経営目標・方針			B		
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識			A		
		④ 園務分掌等の連携			A		
		⑤ 会議の運営と位置づけ			B		
		⑥ 会議の結果			A		
		⑦ 職場の人間関係			A		
		⑧ 園評価の実施			A		
	(2) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修や保育実践研究を実施し、指導や適切な援助の在り方を相互に研修し合い、保育実践に活かせるようにする。 園外の研修やリモート研修に自主的・意欲的に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 園外研修やリモート研修に職員が意欲的に研修を受けることができた。 園内の研修を計画的に進め、研究主題のテーマに基づいた子どもの見方や取り組みについて、職員間で話し合うことができた。 クラスごとに公開保育を行い、指導案の書き方・支援の仕方・環境づくりなどについて学び合うことができた。職員一人一人の課題や強みが明らかになり、資質向上への意欲につながった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修、園外研修、公開保育で学んだことを保育に活かそうとする意識をもち実践につなげることができたかどうか。 日々の保育の記録をとり、事例につなげていけたかどうか。 研修を積極的に受けられるように啓発したり環境を整えたりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が資質向上を目指して研修参加し、自己研鑽できるような体制をつくっていく。 園内研修の内容や計画をたて、進めていく。
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施			B		
③ 園外の研修への積極的参加		A					
④ 園外研修内容の共有		A					
⑤ 研修成果の普及		A					
(3) 安全管理	① 安全計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練の計画を立案し、様々な場面を想定して実施する。 あらゆる場合を想定しての、危機管理マニュアルを再認識し、子どもの命を守る安全対策を十分にする。 月1回の地域の自主防災防犯部会にPTA役員と共に参加し連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に基づき、様々なケースでの避難訓練を実施し、適切な避難の仕方が身に付くようにした。 緊急時、幼児の安全確保の為に適切な職員の体制や対処の仕方について話し合いを重ねた。 バスの置き去り防止訓練を通園バス乗車児を対象に実施した。 警察や交通安全指導員・女性防災クラブと連携をもち、交通安全教室や防犯教室・防災訓練を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの安全確保のための職員の意識向上を目指し、災害時の職員の動線について全職員で確認し適切に動けたかどうか。 子どもに自分の身を守るために必要な安全管理についてわかりやすく知らせるように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理意識を全職員が共有できるようにし、安全対策を確かなものにしていく 	
	② 防災計画の立案			A			
	③ 危機管理体制の整備			A			
	④ 安全指導の工夫改善			A			
	⑤ 家庭との連携			A			
	⑥ 関係機関との連携			A			
(4) 保健管理	① 保健計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 健康安全な生活に必要な習慣や態度が身に付くよう、家庭との連携を大切にしながら指導に努める。 日々の健康観察をし、心のケアが必要な幼児については、全職員で共通理解のもと関わるようにする。 園医や関係機関との連携がとれるようにする。 アレルギー対応を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健指導や健康管理に努め、園児が自分の身体の安全や健康を意識しながら必要な習慣が身に付くように促した。特に、手洗い・うがい等丁寧に指導してきたことで、予防に向けての意識も高まった。 アイコメディカル、保育総務課等と連携し、衛生管理とアレルギー対応に取り組むことができた。 感染症対策に関して、職員間で共通理解し予防に努めることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが自分の健康について意識をもてるように、指導方法を工夫することができたか。 感染拡大防止に向けて継続的に取り組みを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 園児、職員の健康管理、安全管理に常に心がけるようにする。 今後も関係機関と連携して、心のケアや健康作りの推進・管理を行う。 	
	② 心のケアや健康相談の体制の整備			B			
	③ 健康観察、健康管理能力の育成			A			
	④ 関係機関との連携			A			
	⑤ 昼食の衛生管理			A			
(5) 地域との連携	① 園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> 地域の会合に参加し、園の取り組みについて積極的に伝え、理解して頂けるよう努める。 園だよりやクラスだより、園掲示板やホームページ等で園児の様子や取り組みを知らせる。 年3回の評議委員会を開催し、取り組みを参観していただくと共に、評価を仰ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> 園の様子をホームページを中心に情報発信し保護者や地域との連携に努めることができた。 お話の会やグリーンサポートの方と交流を行うことができた。 全体的な計画作成と活動の振り返りを丁寧に行い、次年度に繋げていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 園の保育内容や子どもの園での生活や活動の様子を適切に情報発信できているかどうか。 地域との連携を大切にし、子どもにとって必要な経験や活動を意識しながら検討して進めることができたかどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ等の更新による情報発信に努める。 今後も地域との交流を大切しながら、子どもの育ちにつながる取組の精選に努めていきたい。 	
	② 園(保育)公開			B			
	③ 小学校との接続・連携			B			
	④ こ幼保との連携			B			
	⑤ PTA・保護者会の活性化			B			
	⑥ 地域教育協議会との連携			A			
	⑦ 学校関係者評価の実施			A			
(6) 施設・設備	① 保育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 施設の美化清掃に努め、危険箇所・修理箇所の整備をする。 遊びの環境の安全点検を徹底し見直しをする。 園内の換気、温度・湿度管理などを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が日常的に管理や安全点検を行うことで、早期に対応することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 園児にとって安心・安全で過ごしやすい環境になっているか常に見直しながら保育環境を整えることができているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も安全性を確保するため、定期的に点検を徹底する。 	
	② 施設設備の有効利用			B			
	③ 施設設備の管理			A			
(7) 情報管理	① 公文書の收受・保管	<ul style="list-style-type: none"> 情報の管理については、全職員で共通理解をし、万全を尽くす。 個人情報の取り扱いには十分に留意し、管理と保護は徹底して行う。 情報管理の研修会に参加し、職員の意識向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の漏洩、記録媒体の紛失が起らないように、細心の注意をするように全職員に注意喚起し、管理の徹底を図った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 情報漏洩対策、記録媒体の持ち出しや紛失についての職員の危機意識が高まってきているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が危機意識をもって職務を遂行していけるように、常に意識を高めていく必要がある。 	
	② 公文書の作成			A			
	③ 個人情報の管理・保護			A			
	④ 情報の収集			B			
	⑤ 電子媒体の管理						